

YMCA 東京日本語学校

台湾・韓国・香港からの日本語研修生 ホームステイ受入れ家庭募集!

台湾・韓国・香港からの日本語研修生約30名が、7月8日(月)～27日(土)までYMCA東京日本語学校の日本語研修「夏の東京体験」のため来日し、YMCAに滞在します。滞在中1泊2日の日程で、日本の家庭でのホームステイを計画しています。研修生たちが日本で有意義な体験ができるよう、ホームステイ受入れにご協力いただけるご家庭を広く募集します。皆様のご協力をお願い申し上げます!

※日本語・日本文化に関する専門知識は必要ありません。
※詳細はお問合せください。(YMCA 東京日本語学校 03-3233-0615)

2013年
7月20日(土)
～21日(日)

開始: 7月20日(土) 午後1時 YMCA でピックアップ
終了: 7月21日(日) 午後7時までに YMCA に帰館

上記の時間、研修生と一緒に過ごしていただけます。宿泊場所と20日の夕食、21日の朝食のご提供をお願いいたします。1家庭につき1～2名受け入れていただけますと幸いです。滞在費として学生1名につき3,000円をYMCAよりお支払いいたします。



2013年5月までのその他の活動

2・8 独立宣言第94周年記念式



2・8 独立宣言第94周年記念式が2月8日(金)地下スペースYホールで行われました。留学生連合会会長による独立宣言朗読、内外貴賓の皆様からいただいた祝辞等を通して、94年前のこの日YMCAに集まった学生たちによって宣布された

独立宣言の崇高な意義をあらためて確認しました。また今年も東京韓国女性合唱団の皆さんが素晴らしい合唱で式典に花を添えてくださいました。関西でも2月6日(水)に大阪北部教会で記念礼拝が行われました。

2013 日本と韓国 童謡の集い

今回で5回目となる恒例の「日本と韓国 童謡の集い」が3月31日(土)9階国際ホールで開催されました(東京センテナールYサービスクラブ共催)。季節の歌をはじめとする皆さんの日本と韓国の童謡を、会場に集まった皆さんがいっしょに一つになって



大きな声で歌いました。今回も東京韓国学校合唱団カンタービレの皆さんが参加し、素敵なお合唱を披露してくださいました。

定期会員総会開催



2013年度定期会員総会が、東京韓国YMCAでは5月18日(土)に、関西韓国YMCAでは5月25日(土)にそれぞれ開催され、2012年度事業報告と決算、2013年度事業計画と予算が承認されました。

改選期にあたる理事(各5名)は次の通り選出されました。東京韓国YMCA: 金隆阜・李清吉・吳永錫・鄭順葉・申大永(新任、在日大韓基督教会東京希望キリスト教会長老)、関西韓国YMCA: 権甲植・鄭然元・俞正根・金海喆・朴栄子(新任、在日大韓基督教会豊中第一復興教会牧師)。また東京では崔永貴監事が、関西では朴正浩監事がそれぞれ再任されました。

今後の予定 2013年6月～8月

【在日韓国YMCA】

- 6/13(木) 在日韓国YMCA理事会

【東京韓国YMCA】

- 7/1(月) 第228回教界指導者朝餐祈禱会
- 7/1(月) 日本語学校7月期開講
- 7/8(月)～27(土) 日本語学校 夏の東京体験
- 7/9(火) 2013年度第2回東京韓国YMCA理事会
- 7/28(日)～8/3(土) 建国大学で学ぶ韓国語 2013夏
- 8/16(金)～18(日) 池成子先生招請民謡・カヤグム講習会

【関西韓国YMCA】

- 6/2(日) 生野一致祈禱会(日本キリスト教団 大阪生野教会)
- 6/8(土) エキュメニカルフォーラム「エキュメニカル運動の目指すもの」(YMCA後援)
- 7/2(火) 生活者のための日本語教室 2学期開始
- 7/6(土) 第1回「四季を彩る韓国料理」教室(講師:高杏子)
- 7/12(金) 第110回 YMCA教界指導者早天祈禱会
- 7/13(土) 2013年度 第2回関西韓国YMCA理事会
- 7/20(土)～21(日) 枚方サマースクール(YMCA)
- 8/24(土) 生野つながりデイキャンプ(紀泉わいわい村)

＜編集後記＞

- 夏本番前、Yのスタッフもクールビズのシャツを着始めました。今年は昨年以上の暑さになるとの予報も聞きます。無事に夏を越して秋にまたお会いしましょう。(朴)
- ブラインドサッカーの試合を観に行く機会がありました。何も見えない中で、音をたよりに懸命にボールに向かって走る姿は、まるで人生そのもの!? (才)
- 今号も読み応えのある原稿を執筆いただいた皆さんに感謝申し上げます。さらなる内容充実のために、編集委員一同引き続き努力します。(た)
- 某料理番組のレシピにはまる日々。(白)
- 新しく始めよう!と意気込んだまま始めないでいるものがチラホラ…。まずは頭の整理から始めることにします。(U)

YMCA 東京日本語学校学生募集中

KAKEHASHI かけはし 2013 June vol.11

発行人: 金秀男 発行: 在日韓国YMCA アジア青少年センター
〒101-0064 東京都千代田区猿樂町 2-5-5
TEL: 03-3233-0611 FAX: 03-3233-0633
http://www.ymcajapan.org/ayc/jp/
ayc@ymcajapan.org



『かけはし』次号は2013年9月発行予定です。

Twitter: @zainichiyca Facebook: Korean YMCA in Japan
より良い紙面づくりのために、ご意見・ご感想等お寄せください。

在日本韓国YMCA
アジア青少年センター
Korean YMCA in Japan
Asia Youth Center

かけはし

真の意味での「憎悪」克服を

金耿昊

(キム・キョンホ / 在日大韓基督教会 横須賀教会執事)

ここ最近、在日外国人(特に在日コリアン)に対するヘイト・スピーチがエスカレートしてきています。東京・新大久保、大阪・鶴橋、神奈川・川崎など外国人が多く住む地域を標的に、「朝鮮人 首吊レ 毒飲メ 飛び降りロ」、「よい韓国人も悪い韓国人もどちらも殺せ」、「ハヤククビツレ チョウセンジン」といった醜悪な言葉がプラカードに掲げられ、「コロセ コロセ チョーセンジン」といったおぞましいシュプレヒコールが集団的に絶叫される。そんな悪夢のような状況が、いま現場で実際におきているのです。「在日特権を許さない市民の会」を中心とする「行動する保守」のグループは、ここ数年同じような行動を全国各地で繰り返してきました。憎悪に満ちた集団的な暴言・暴行が、もう何回も、何十回も、外国人住民に叩きつけられてきたのです。



「在日特権を許さない市民の会」による街頭デモ活動の様子

悪意に満ちた言動をぶつけられて平気な人間なんて、この世のどこにもいないでしょう。だからこれ以上の被害を出さないために、何をしても彼らの行きすぎた暴力を防ぎとめる必要があります。これにかかわって最近、排外主義的デモに対して路上でカウンター行動がとられたり、ヘイト・スピーチに対する法的規制を進めようとする動きが生まれはじめています。一旦は歓迎すべきことであるでしょう。

しかし、その「ヘイト」克服のための動きの中にも、私はおかしなものを感じています。例えば新大久保のカウンター行動では、「レイシスト・カエレ!」との掛け声が、中指を立て、相手のデモ隊に悪罵をまき散らす行動とともに展開されていました。排外主義的言動も気持ち悪いですが、それに対抗する側も、憎悪にみちた言動で応酬している光景。そこに何ともいえない気持ち悪さを覚えてしまうのは私だけでしょうか。

また twitter 上にはヘイト・スピーチへの反感として、「新大久保に住んでるのはいい韓国人だ」「俺の友達にはいい韓国人もいる」「そういう人をいじめるのは許されない」といった類のつぶやきが氾濫しました。良心的なつもりなのでしょうけれど、ここにも気持ち悪さがあると思います。悪い朝鮮人と良い朝鮮人の境界など、そんなにはっきりとあるはずがないですし、そもそも悪い朝鮮人であれば排斥していいのでしょうか。日本社会の差別性を告発しようとしたり、植民地主義の清算にこだわったり、朝鮮学校出身であるだけで、容易く「反日的」にみなされる社会だというのに。

【2面に続く】

聖書に聴く 第11回

朴時永 牧師(パク・シヨン / 大阪築港教会担任牧師)

静かに待つ信仰 (出エジプト14:13)

エジプトを出たイスラエルの民は、荒れ野を通過して葦の海までやって来ました。ところが、人々が後ろを振り向くとエジプト軍が追い迫って来るのを見ます。彼らは不安と恐怖の中で八方塞がりに陥りました。しかし、この絶体絶命のピンチを造り出したのは神です。彼らは神の導きに従って危機的状態に陥ったのです。なぜ、神はそうしたのか。それは、彼らに信仰とは何かを知らせるためでした。

信仰とは、試練の時に、自分を救ってくれる御方は誰なのか、を認識することです。また、そのことが分かれば、沈黙して静かに待つことです。しかし、沈黙して静かに待つことは決して容易なことではありません。必ず、つぶやきや愚痴、不平不満が出てきます。荒れ野での彼らの様子を見れば一目瞭然です。神の救いを静かに待つことは神の憐れみと恵みがなければ不可能です。自分の力では何もできません。

ゆえに神の救いは、彼らにとって想像もつかないものでした。

見えない所に見える道を神は創造してくださったのです。追い込まれていたイスラエルの民にとって、それはたった一つの救いの道でした。この道は、パウロが第一コリント10:13以下で、「あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないような試練に合わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます」と言っている、「逃れるの道」と同じ意味合いを持っています。イスラエルの民が八方塞がりのように追い込まれていても神は人間の考えをはるかに越えた驚くほどの御業をもって救いの道を提供してくださったのです。そしてその道は、イエス・キリストによって現れてきたのです。

私達の救いは徹頭徹尾神によるものです。だからこそ、自分を救ってくれる御方は誰なのかを知ることはとても大切です。このような神の教育・訓練を体験していくことによって、揺るぎない信仰が与えられていくのです。神がそうするのは、私達に平安を与え、神の民として生きるようにするためです。すなわち、神の民として生きるとは、救いを与える神を宣べ伝えることなのです。

【1面から続く】

他方、行き過ぎたヘイト・スピーチに対して、右翼活動家や政治家は次のような発言を重ねています。「日の丸の旗が可哀相だ」、「日の丸はもともと日本の優しさ、寛容さ、大和の国を現す旗」であるのに「排外主義的なものに使われて」「日の丸の旗が泣いている」（排外・人種侮蔑デモに抗議する国会集会、2013年3月14日、鈴木邦夫）。「一部の国、民族を排除する言動があるのは極めて残念なことだ」、「日本人は和を重んじ、排他的な国民ではなかったはず。どんな時も礼儀正しく、寛容で謙虚でなければならないと考えるのが日本人だ」（参院予算委員会答弁、2013年5月7日、安倍晋三）。私は日の丸がアジアへの侵略と植民地支配をおこなった日本の旗である限り、寛容さの象徴になるとは思えません。また朝鮮学校への高校無償化排除を強行したり、従軍慰安婦にかかわる妄言を繰り返す政治家をみる限り、日本人が寛容で謙虚であるなどとは、簡単には思えません。そして何よりもそうしたことに無神経なまま語られる「寛容さ」というものを、私は嫌悪します。

ヘイト・スピーチの克服は、何をいってもなされなければならないことではないでしょうか。しかしそれがあつた集団への憎悪を込めた暴言・暴行や規制といった手段、そして「日本の寛容さ」を称揚し、「良い朝鮮人」をかばうような論法をとる限り、本当の意味で「憎悪」の克服になるとは私には思えません。どこを見てもおかしさが目に付いてしまうのは、私が神経質だからでしょうか。しかし、この世に生まれた人間はどのような存在であろうとも人として尊重されるべきという認識や、外国人（朝鮮人）にむけられている差別の現状にむきあい、その歴史的淵源も含めて乗り越える努力——、そうしたものを抜きにした「憎悪」の克服は、結局何かを排除するものにしかたらないのではないのでしょうか。表面的なとりつくりではなく、いま何が必要とされているのかを見据えつつ、目の前の差別の問題に向きあうことを続けていきましょう。そうしなくては、簡単に道を踏み外してしまうかもしれない状況なのであります。

連載 東京の中の韓国を巡る【第3回 番外編・映画「かぞくのくに」】 才門勇介（「かけはし」編集委員）

「東京の韓国を巡る」第3回は番外編として映画のお話です。昨年の8月に公開された「かぞくのくに」。劇場で観たいと思いつながら観ることができていなかったのですが、DVDが発売されたという事で観てみました。実は今、韓国でも上映中とのこと。

この作品は在日コリアン2世であるヤン・ヨンヒ監督が自身の実体験をもとにして、今なお北朝鮮で暮らす兄たち家族を想い撮った作品です。

北朝鮮の「帰国事業」によって北朝鮮に渡って生活し25年ぶりに病気の治療の為に日本に帰国した兄、それを迎える日本で生活する妹、父母、家族の喜び、そして再び引き離される苦悩を描いています。

「かぞくのくに」。とてもシンプルなタイトルですが、実はとても深いタイトルでもあります。人にとって、意識するかしらないかは別として「くに」は確実にアイデンティティの重要な核となる要素です。

歴史的、政治的に翻弄され、そのアイデンティティを確立する事を阻害され、祖国を愛そうとするなかで、矛盾の中に取り込まれていく人々たち。

北朝鮮の帰国事業についてはよく知らない世代です。在日の母を持っているものの、それでも日本で日本人として生まれ育った私にはやはり本質的には「理解」出来ない部分がたくさんあります。それでも、在日の社会を少しながら知っているので内容自体、空気感自体は、わかる部分があり、完全に他人事ではなく何度かため息をつきながら観ました。

特に主演の兄妹の母の葛藤ある行動にはぐっとくるものがありました。

祖母を見ていると、日本で暮らしながら、日本人の感覚を持ち、日本人の家族の中で日本人の生活をしてはいますが、内面に韓国人としてのアイデンティティを感じる事があります。

今、また日本、韓国、北朝鮮を取り巻く環境は特に政治的な意味で微妙な空気感に包まれています。

そのアイデンティティを語る際に、ヘイトスピーチにあらわれるような、なにか、積極的な排他的なものが先行しがちです。でも、人の気持ちの中での祖国につながる気持ちはもっと優

しく、時に切ないもの。

ヤン・ヨンヒ監督はタイトルである「かぞくのくに」とは、「どこかの国ではなく、家族が本当の意味で一緒になれる理想的な場所のこと」だと語っています。

だとすれば、ほとんどの人に関係のない世界の話のように見えて、もしかしたら、実はすべての人にとっての「かぞくのくに」の話なのではないか、と思います。



2013年1月～5月のプログラム

東京韓国YMCAの活動 2013年1月～5月

第5回オリーブ平和映画祭開催 『壊された5つのカメラ』を上映

5月18日（土）、第5回オリーブ平和映画祭が開催されました。今年の上映作品は、第85回アカデミー賞長編ドキュメンタリー部門にノミネートされた『壊された5つのカメラ パレスチナ・ビリンの叫び』（原題：5 Broken Cameras）2011年。映画の撮影地であるビリン村で暮らしながら、写真を取り続けてきた、写真家・高橋美香さんのスライドトークもあり、幅広い年代層の参加者と共に、上映作品に対する理解をより深めることができました。

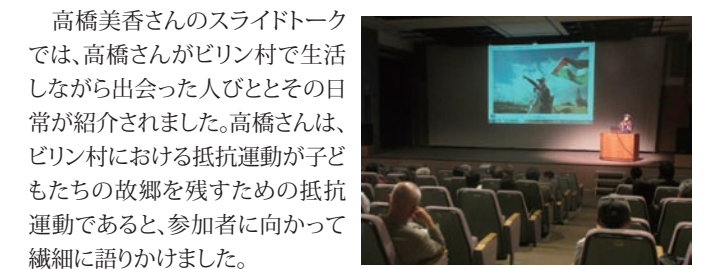
在日本韓国YMCAでは「オリーブ収穫プログラム」（東エルサレムYMCA・パレスチナYWCA 共催）への参加者の派遣、パレスチナの子どもの「エルサレム訪問プログラム」への支援を行うと共に、映画を通じてパレスチナの現状を多くの人びとと共有したいという思いから、2008年より「オリーブ平和映画祭」を開催して来ました。映画祭の収益金は、東エルサレムYMCAとの交流活動、現地におけるプログラム支援のために用いられます。

壊された5つのカメラ
5 BROKEN CAMERAS パレスチナ・ビリンの叫び



『壊された5つのカメラ』は、ビリン村に住むイマードが、四男ジブールの成長を記録しようとカメラを手にした所から始まります。そんな中、イスラエル軍によって「分離壁」が築かれ、村の耕作地を強制的に奪われたビリン村では、毎週非暴力のデモが続けられています。イマードのカメラは、家族や村の人びとの生活の記録であると同時に、イスラエルの入植、燃やされるオリーブ畑、デモの中でイスラエル兵に射殺された友人の死も同時に映し出します。

高橋美香さんのスライドトークでは、高橋さんがビリン村で生活しながら出会った人びととその日常が紹介されました。高橋さんは、ビリン村における抵抗運動が子どもたちの故郷を残すための抵抗運動であると、参加者に向かって繊細に語りかけました。



会場では、パレスチナのオリーブで作られたフェアトレードのオリーブオイルの試食販売、ペイトサフルYMCAのリハビリテーションセンターにおいて作成された、オリーブクラフトの販売も行われました。（高橋梓）

関西韓国YMCAの活動 2013年1月～5月

『国際協力の日』に参加

「外国人が暮らしやすい社会は日本人も暮らしやすい」をテーマにキリスト教各会派の共催による『国際協力の日』が5月19日（日）玉造にあるカトリック大阪カテドラル聖マリア大聖堂で行われ、関西韓国YMCAも出店参加しました。

当日はお昼前からあいにくの雨となりましたが午前11時からのミサの後、カテドラル内では歌や踊りの発表が次々と行われ出演者と観客が一体となって楽しんでいました。また様々なグループの活動紹介・物品・書籍販売のブースが所狭しと並び大勢の人でごったがえしていました。外の駐車場では各国料理の屋台が並び、お国自慢の料理の美味しいにおいが漂う中、各国の言葉が飛び交っていました。

私達は韓国民俗芸術科メンバーとスタッフ手作りのチヂミ、ケーキ、シッケと仕入れた生マッコリ、ビールを準備しました。来場したメンバーに日本語教室の先生も加わり、「売って・見て・買って」楽しく交流し、チヂミ、ケーキは完売しました。



全体の当日参加者は約2200名、関西に在住する外国人・日本人がこんなに多く集まり交流する場は他になく、今年で19回目になります。私達は今回初参加でしたが、来年も是非参加しようということになりました。

なお、今回の収益は教室整備のための費用として使わせていただきます。

（小林利子）

生活者のための日本語教室を開講

4月16日より新規事業である「生活者のための日本語教室」を開講しました。この教室の特長は1年4学期制で1日2時間を火曜から金曜まで3ヶ月で80時間学ぶということです。費用も家計から捻出することを考慮し低く抑えています。

カリキュラムやレベル設定など大阪YMCA日本語学校の全面的な協力をいただきました。11名の登録者と二つのクラスでスタートし、受講生の国籍は4カ国、滞在資格も家族ビザ・宣教師・ワーキングホリデー・就労ビザ・観光などさまざまです。しかし、日本語を学ぶとそれぞれの思いは切実で、文字による情報を理解できずに不便を感じていることや生活者としての外国人が日本語を学ぶ場がまだまだ少ないことがわかってきました。



一人でも多くの外国人が言葉を学ぶことで安心して快適にそして自立して生活できるように支援し、「多文化共生社会の実現」への歩みを進めたいと思います。

（金弘明 <キム・ホンミン>）